

2013年(平成25年)10月16日 水曜日

福島県の避難者交流

美浦 郷土話や不安語る



福島県の避難者が郷土の話に花を咲かせた交流会＝美浦村木原

東京電力福島第一原発事故の影響で福島県から本県に避難している人たちの交流会が14日、美浦村木原の同村老人福祉センターで開かれ、避難者らは郷土の話に花を咲かせると

ともに、帰還への不安を口にした。交流会は県内で避難者を支援するふうあいねっと主催。美浦村や稲敷市、阿見町などから11世帯16人の避難者が参加し、故郷の人間

士やボランティアとの交流を楽しんだ。福島県から避難者支援課の職員や福島県教委から本県に派遣されている教員も参加し、帰還に向けた県の施策の説明や、避難者から

寄せられる相談への対応なども行われた。

福島県富岡町から美浦村に避難している女性「福島から来ている人に会えてほっとする」と目を潤ませて話していた。

福島県楮葉町からつくば市に避難している70代の男性は「除染をしても線量が下がらない。土地を買って(本格的に)生活に移したい人は多いのでは」と、原発事故から2年半以上がたった今も生活が落ち着かない現状を不安げに話していた。